令和６年度　学校評価アンケート結果

刈谷市立小高原小学校

１　学校評価アンケート調査対象及び実施期間

児童、保護者、教職員

令和６年１２月上旬実施

２　学校評価アンケート結果の考察

保護者にはスマートフォンを用いた WEB アンケートによる回答をお願いした。WEB アンケートに回答できない場合は従来の紙面回答としたが、ほとんどの家庭が WEB アンケートによる回答に協力いただけた。教職員・児童にもタブレット端末を使って回答することで、全教職員・全学級で回答を行うことができた。

（１）よかった項目

・児童、保護者とも、全ての項目において「そう思う」「まぁまぁそう思う」と答えている割合が７０％を大きく上回っている。

・授業においては、授業が分かりやすいと答えた児童は９０％を超えており、理解しながら授業を楽しんでいる子どもの様子がつかめる。

・「クラスは協力しあっていて楽しい」については児童が８９％、「子どもたちはクラスの人間関係に満足し、楽しく学校生活を送っている」については保護者が９０％、教職員が９７％と高い割合を示していて「クラスの協力・人間関係」に対しても肯定的な回答が多い。小高原小学校の経営方針でもある「日本一あたたかい学校」に対しても、児童が８２％、保護者８９％、教職員１００％と高い割合を示しており、児童、保護者、教職員がともに肯定的に捉え、学校やクラスが多くの子どもにとって好ましい場所となっていると考える。

・児童の「友達の意見を聞いたり、自分の考えを発表したりすることが好きか」は、昨年度の６３％より上がっているものの７３％と低い。しかし、教職員においては「話し合いにより思考を深める授業を工夫している」との回答が６７％から９４％に上昇している。これは、本年度の授業研究でグループ活動を積極的に取り入れ、少人数であれば気軽に意見を交流することができるようになってきたためである。また、教職員も、児童が自分の考えを表現できるような発問等を工夫することで、学びが深まるような授業づくりに取り組んできた成果が出てきたと考えられる。

（２）改善すべき項目

・「あいさつがしっかりできているか」は、児童８０％、保護者は８６％と答えている反面、教職員が５５％とそれほど高くない。このことから、学校生活のさまざまな場面であいさつができるような雰囲気づくりを行うとともに、地域の方々にもあいさつをしていく指導を継続的に取り組む必要がある。

・昨年度差異があった「決まりを守って生活」しているかについては、児童が８６％、保護者は８９％、教職員が８６％と同じくらいになってきた。このことから、これからも約束やルールを守って学校生活を送ることの大切さを実感できるような心の育成に力を入れていく必要がある。

・「いじめや問題行動に早期解決に努めている」と１００％の教職員が答え、９０％の児童が「先生はいじめや困ったときにすぐに解決してくれる」と答えているが、保護者は６７％と教職員や児童と評価に大きな開きがあった。今後は、今以上に一人一人に寄り添いながら適切な支援を続けるとともに、学校での様子や指導状況について、迅速かつ確実に家庭へ報告し、共通理解を得ていく必要がある。そして、全職員で学校での情報共有を強化したり、必要に応じてケース会議を開いたりしていく。

・児童の「自分にはよいところがあると思うか」には７３％から８２％と上昇した。また、１００％の職員が「よいところを認める支援に努めている」と答えているが、「子どもたちは自分のよさを自覚している」と答えた教職員は７７％に止まっている。職員は、子どものよさを認めるよう努めているものの、それが子どもの自己肯定感の高まりにうまく反映されていないことが考えられる。

そのため、子どものよさを的確に把握し、継続してそのよさを認め伸ばす指導を心がけ、子どもに自信をもたせていく必要がある。

（３）学校運営協議会委員より

・授業におけるグループ活動を通して、自分の考えを表現できる場があることで、自分の考えを認めてもらったという体験が、児童の自己肯定感を高めることに有効であったことが分かりました。今後も多く取り入れて、継続的に取り組んでいただきたい。

・子どもたちが自分の考えを発表する活動を取り入れていることで、児童一人一人を人格者として扱うことにつながっていると思います。大切にされているという意識が芽生え、子どもたちの心が豊かに育っていくと思います。

・あいさつは、地域が安全と安心な場所であるという認識を高めるために大切な手段であると思います。防犯上、パトロール隊の方々とともに子どもたちを巻き込みながら地域防犯活動を推進していくことができるとよいと思います。

・通学団で交通安全に気を付けているすてきな姿をはじめ、地域でのすばらしい様子を学校に知らせていただきたいと思います。得られた情報を、学校の先生方から子どもたちに伝えることで、よい姿が広がっていくと思います。それを継続することで、子どもたちの自己肯定感を高められることにつながっていくと思います。

・学校生活の中で褒めることをたくさん取り入れ、子どもたちの自己肯定感を高めるように取り組まれていることを感じました。あいさつについては、子どもたちの場面に応じて取り組むだけでなく、その見本である大人からも積極的に明るいあいさつをしていくことが、子どもたちの変化を促すことになると思います。そして、子どもは大人から「えらいね」「ありがとう」といったことを言われる経験や習慣を積み重ねることで、内面が変わっていくことになります。子どもたちのよい姿をたくさん提供していただき、学校の先生が子どもたちに紹介する中で自己肯定感を高めていけるとよいと思います。